

本年の大麦は、ほ場や播種時期によって生育のバラつきが大きくなっています。今後の生育を確保するため、ほ場をこまめに見回り、停滞水があれば速やかに排水しましょう。

1 排水溝の点検・手直し

大麦は、ほ場内に水が停滞すると、湿害（根腐れ症状）を受け、生育量の不足、収量の減少につながります。

<点検のポイント>

- ・水口がしっかり止まっているか？
- ・連結した排水溝に水が溜まっていないか？
- ・排水溝が埋まっていないか？
- ・掘り下げた水吐尻から水が抜けているか？

◎排水溝の手直しや増設、排水口の掘り下げを徹底しましょう。



水が流れるよう溝の手直し
排水溝の連結！！

排水溝と水吐尻を
しっかり連結！！



溜まっている水を早く
排水しましょう！

2 消雪後追肥の実施（分施体系のみ）

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数・穂数を確保するために重要な技術です。

◎分施体系の施肥管理

時期 2月下旬～3月上旬

（積雪がある場合は、消雪直後）

施用量 茎数 少～並 硫安 20kg/10a

※茎数が多い場合（土が見えないくらい繁茂しているようなほ場）は、施肥量を減らしましょう。

◎大麦専用基肥一発肥料（LP大麦48号）体系では、追肥しない